

令和元年度 第1回日南町総合教育会議 会議録

招集年月日	令和元年5月31日
招集場所	日南町役場防災会議室
開 会	午後3時00分 教育長
出席委員	中村町長 伊田教育長 須田教育委員 中村教育委員 長谷川教育委員 中島教育委員
欠席委員	
オブザーバー	丸山副町長、木下総務課長、村上教育次長、吉田日南小学校長、吹野日南中学校長、段塚保育園長、福田室長

議 事 日 程		
議 事 の 経 過		
日程その他	発 言 者	発 言 の 要 旨
協議	教育長 町長	<p>開会</p> <p>事前に委員から町長の教育に関する考えを聞きたいということがあったので、町長の方から考えを話して頂きたい。</p> <p>前回は申し上げた部分もあるが、教育は幅が広く、ICTとか電子黒板とかいろいろ整備してきたが、結果はどうかということを経過も含めて理解していないのが現状なので、現場に行ってみたいと思っている。その中で、みなさんこうしたらどうかと思うものが何点かあってそれを先に伝えたい。</p> <p>一点目は学力向上を目指すべきであると思う。今、日南の子ども達は、間違っていたら訂正して頂きたいが、学力の高い子どももいるが、一般的に平均点の位置が普通であれば実人数的に一番多いイメージがあるが、それより少し低いところが実数が高いイメージがある。そこがせめて平均点より一歩前ぐらいになるような人数構成に、そうすると平均点が若干上がるということになると思うが、そこが目指せないか。基本的に人は生まれたときからある程度平均的な知力があると思う。それが保育園の段階、小学校の段階、中学校の段階でいろいろな環境の違いで差が出てくると思う。そこが、家庭教育や地域教育が入ったり、環境の部分が加わって、今の点数の差が発生するだけの話だと思っている。それが小学</p>

校がそうだから中学校も同じかというところでもなく、変化をつけることができる、それくらい柔軟な小学校、中学校の時代ではないかと思う。個人的に思っているのが、ある程度保育園の時代から多少改善できる部分があるのではないかと思う。元々、保小中一貫という話で動いているなかで保小中の連携がうまくいっているのかと思う。うまくいっているということであればよいが、その辺をみなさんがどう思われているか深掘りする必要があるのではないかと、何年かやってこられて反省点や良かった点もあると思うので明確にして改善点があるなら動いて頂きたい。

二点目は、去年から小学校に英語が入ってきて、その辺の動きができてきているのか。ある本を読んでも、義務教育過程の卒業時にある程度の目標とする姿が決められていると聞いて、現場のみなさんはご承知を思うが、そこまでいく過程において地域の特色、学校の特色が踏み込むことが可能だと聞いているが、とは言え制度の中で動いているみなさん方なので、柔軟性という言い方がいいかわからないが、その辺の余地はないのかなと思っていて、私達の時代は英語は中学校になってスタートですよ、個人的には早いうちからでもいいのではないかと、ただレベルをどう評価するかということはいろいろな見方があると思う。書くことなのかしゃべることなのか覚えることか。例えば保育園の子どもは覚えることはすごく早い。書くことはできないが、覚えてしゃべることは長けている。踊るとか音楽をするとか見て覚えてしゃべる能力は低年齢でも結構できる。歳をとっている人より早い、感心する。そういったところを伸ばしてあげることにはできないのかと思っている。そういった意味で、保小中の保の動きはどうなのかという話もある。自然と遊ぶとか、体を使って遊ぶとか、将来的にどこにいい点が繋がっていくのかなかなかわかりにくいので、教えてほしい。

もう一つ、本物を見せてあげるという取組みができないか。海外派遣はやっているが、文化的な演奏など、年1回ぐらいすると子どもの世界観が広がるのでは。CDで聴くよりも舞台の中で聴いてもらうとか。そういう機会を、うちで作らなくても、出て行って聴いてもらうとか、極端な例だが、修学旅行の一貫の中で大阪のコンサートを観に行くとかやり方はいろいろあると思う。基本的には、絵画を観るにしても本物を観ることが重要ではないか。

もう一つ、いろんな本を読むと、多様性を認めるという気持ち作りはどうしたらいいか気になっている。難しい話とは思うが、いじめの問題にしてもそういうところが根源になっているのではないかと、教えてほしい。木育については学校と協議中ときいているので、是非日南町で生まれて育つ子ども達なので、

<p>教育長</p>	<p>こいうことは将来的な人間形成に重要ではないかと思っている。協力をお願いしたい。</p> <p>もう一点、この前、教育基本振興計画を読んだ。いろんなことを学校側がするにしても保護者のみなさんと情報をしっかりとって頂くということが大事だと思っている。保護者も忙しいと言いながら、自分達の子どもの話なので、学校の方針や子どものことも含めて、できれば夫婦で来てもらう姿勢を作ってもらいたい。できれば同じ場で同じ事を聞いてもらう事が大事ではないか。</p> <p>ちょっと聞きたいが、資料で、発達障がいと診断された在籍者数のグラフがあるがどうか。</p> <p>町村の教育委員との意見交換・研修の中で、県の教育次長から鳥取県教育振興基本計画というものの第5次ができた、そのことについて講演があり委員のみなさんが聞かれている。その中の資料に、発達障がいと診断された幼児・児童・生徒の在籍数が、平成12年度から平成30年度までのグラフが出ている。(※グラフの数値について説明)</p>
<p>町長</p>	<p>小学校が一番高くて、中学校が2番目に高いが、この差はある程度治ってきているというとらえ方なのか、そのまま下から増えているとみたらいいのか、どちらなのか。</p>
<p>教育長</p>	<p>早期に対応すれば改善もする。例えば1年生でケアをしている子が措置替えで支援学級で適切な指導をすれば通常学級に帰っていきけるというケースが多々ある。もう一方の原因として、中学校から高校に行くので、高校受験をやっていくためには、通常学級でやっていかないといけないという、情緒の高校がないというリスクがあって、中学校から措置替えするケースが増えてきて、数として少なくなっていくという面もある。小中学校の校長先生、どうですか。</p>
<p>小学校長</p>	<p>仰ったように、小学校としては、できるだけ早期に保護者と情報を共有しながら適切な支援を加えていくという意味で発達障がいと見立てて支援をしていって、できるだけ早期に通常学級に戻しましょう、という方針でやっている。</p>
<p>中学校長</p>	<p>小学校の時にこういう支援が必要だというようなことでいろいろ言われているんだけど、できることもたくさん増えてきて、そういうところが他の能力でカバーされたりしてくるので、最終的に進路を考えたときに、情緒の生徒は普通校を受験する生徒の方が多かったりしていくので、措置替えも行われている。</p>
<p>町長</p>	<p>ということは、小学校がどんどん伸びているということは、全体的に新規の方も一方では増えているということか。</p>

教育長	認知度が広がってきているし、気付きも広がっている。校長先生どうですか。
小学校長	そのあたりは保・小との連携にも関わってきて保育園でいろいろな気付きがあって、小学校でそれを引き継いで発達障がいなどを見立てていくというのもあるので、保育園からの情報をかなり有効に頂けている。
教育長	保育園が伸びないのは、発達のまだ非常に早い段階なので、そこで診断するというリスクを思っておられる方もあるが、その躊躇が小学校に入って間に合わないということもあって、兼ね合いが難しい。
町長	5歳児健診である程度わかるというか、それまでは子どもが小さすぎてわからない、症状がでないということがあるのかもしれないが。
教育長	3歳児健診・5歳児健診というのがあるので、有効な施策である。
町長	このグラフを見ると、あまりにも数字が大きいのので、なんでこういうふうになるのかと思うが。
教育長	委員でなにかありますか。
教育委員	日南町は5歳児健診をするが、ないところもあるし、希望者というところもある。専門家の手だてが早くなされれば中学校段階ではさっき言われたようになるのでは。
町長	英語の状況はどうか。小学校3年生から、その前は5年生からという経過があるが。求められている姿にはなっていると理解していいのか。3年生のレベルはどんな授業か。
小学校長	3・4年生の段階では、慣れ親しむという段階なので触れるということが1番の目当てになる。5・6年生になると、それに少しコミュニケーションのツールとして英語を持ってくるという形で、例えば語順とか3人称単数がきちんとできなくても、英語を使って話かけてみようかとか英語でいろんな人とコミュニケーションしてみようかというのが大きな目標なので、単語が正しく過去形が使えなかったとしても英語を使ってトライしてみようという気持ちを育てる形になっている。ただ、中学校への接続としてアルファベットとかはみんながこれから習うようになるので、今まではそれを覚えなくていいという段階だったが、今度の指導要領からはそれも入ってくる。ただどちらかという、きちんと書き取りして英語を覚えましょうという前段が小学校になるので英語を浴びても臆さないというか、英語の中にあっても自分の気持ちを伝えようという形だと思う。実際、昨日、一昨日と修学旅行に行ってきたが、平和公園にたくさん外国の方もおられて、子ども達はすれ違うときに挨拶をかわしたりとか、自分の方から話しかけたりという姿もみられたので、そういった姿は狙っている部分のひとつ。

町長	子どもは楽しく英語の授業を受けているか。
小学校長	それはそれぞれではないかと思うが、そうなるように教員としては工夫をいろいろ考えているところ。今年学校の中にいろんな部屋とか場所に、英語も合わせた札を貼って、子ども達が少しでもその環境に触れたりできるようにしている。
教育委員	面白い話を聞いたが、アメリカの子どもは3歳で英語をしゃべる。日本は新学習指導要領で大人の腰が引けているのではないか。置いといたら子どもは伸びる、この人間力を信じてやれと言った人がある。日南の子はやるかもしれない。
町長	できるかできないかは別として、外国の子とテレビで繋がって休憩時間に相手と会話するとか、そんなことが日常の学校生活の中であれば自然と覚えるのではないか。
教育委員	それも教育機会の提供だとすれば有りかもしれない。
町長	私たちのときは書くことから始めているので、嫌だと思ったらずっと嫌になるので、楽しいとか嬉しいとかいう気持ちにならないと学習意欲に繋がらないと思う。どうですか。
中学校長	去年から、町からお金を出して頂いて、全員が英検を受検している。3年生は10月に、1・2年生は1月の終わりに受検する。1・2年生は4級・5級を、3年生は3級を受検し、1次に受ければ2次で英語で面接を受ける。それまでは個人で受けたりということであると、お金がかかったり、落ちるのが嫌だとかで受けていなかったが、こうやって全員が受けることになるとはっきり合否が出るので、英検の前は図書室に問題集を置いて、勉強したりということで、今年卒業した3年生では中学生ではなかなか取れない準2級に合格している生徒も出ている。
教育長	材料はいろいろな面で整っているので、保小中連携に繋がっていくと思うが、学力をどうつけていくか。
町長	保育園の段階から、単語の練習やあいさつとかしたらどうか。家庭でもそれくらいできる。書かなくていい、しゃべるだけなので、保育園でもいくらでもできる。どうですか。
保育園長	保育園でも挨拶を毎日するとかであれば内容も十分理解できると思う。 市町村では、保育園にALTが30分でも入るところがある。
町長	今までも、時間数は別としてALTが保育園に入って子どもと一緒に遊んだりしていたのでは。
保育園長	学校が夏休みの時に、来てもらってということはあった。
町長	保小中の連携はうまくいっていると認識していられるか。

教育委員	十年経っても定着していない。今こそ練り直さないといけない。
町長	再確認をして頂きたい。最終的に目的は誰も同じで子どもの成長だと思っているので、そのために、どの段階で何をしていたら中学校3年生の時に目標とされる姿が作れるかということなので、今までやって来た事とが本当によかったか、途絶えているところがなかったか、自らが検証してくれないといけない。教育委員も私もその役割があるので、何がいけないのか反省をしながら、よかった点はよかった点、進まなかった点を明確にすべき。
教育委員	保育園から小学校に上がって、1年生の段階で、例えばなんで保育園できちんとできていたのに小学校でなんでこういう状況かという落差があったときに、どこに原因があるか聞いてみたい。小学校に行った子どもたちを保育園の先生が見て、なぜだろうかと考えてみて下さることも大切だと思う。
町長	他の学校はどうなのかとか、そういうところからスタートしないとなかなか答えが出にくいのではないか。ひとつのヒントになるのではないか。
教育委員	そのあたりを小学校の先生と保育園の先生で話合われるということはないのか。日南町の中学生は送り出すときに、どんなところまで育ててやるのかというイメージがあってそれにむけて家庭も地域も保育園も小学校も中学校もその段階段階でどんなことを大事に育てていくかというあたりはどうなのか。保育園でもう育てていることが、小学校で逆戻りしてまた同じようなことをしているかもしれないし、そのへんの話はされないのか。私たちがわからない部分なので聞きたい。
町長	そういう会に私たちも出てもいいと思う。オブザーバーでもいいので。
教育長	乗り越えられないものがあると思う。学校をまかされている校長の考えで動く部分もあるが、町の学校として保育園段階として小学校段階として、中学校段階として、町の子どもとしてこんなことを教育してほしいというその所がわからない。
町長	作ってないと思う。明確な言葉として作られていないというイメージの方が強いのではないか。やっていることが悪いということではない。自然を大切に体動かしたりとか、友達を大切にするとか、そういうことをたくさんやっていると思うが、保育園を卒園するときこういう子どもを育てたいというところを小学校と中学校が共有しないといけない。小学校を卒業するときこれくらいの姿の子どもを作ろうとか。中学校も卒業にむけてこういう子どもを目指すか決まっている。
教育委員	それが大綱の中に折り込まれている。

教育長	それが網羅的である。日南町の子どもとして何を大事にしていくかということの重点化をこれからしていけばいいと思う。20も30も項目があるが、それを書き上げることが大事ではなくて、その中で絞り込んで町の子どもとしてここだけはやろうものをみんなが確認する作業は要る。
町長	全部やるのは現場では難しいというのが現実ではないか。最終的には日南町の子どもをどういうふうにしたいかを重点的に決めて動いていかないと、全て100点の子どもを作ることは現実問題できない。最終的に中学校を卒業したときにどうなのっていうところもひとつの考え方だと思う。研修もしてほしい。
教育委員	中学校卒業時の生徒の姿を示すのが教育方針だと思う。成文化するのは難しいことだが求められている。
町長	そのために最低限の保育園のレベル、小学校のレベルの目標値を作っていくとわかりにくいと思うし、学校の先生も保育園の先生もそういうことが示されたら楽なのかもしれない。それぞれで頑張っているのは事実だが、連携の中で一本の線に繋ぐことが大事ではないかと思うし、既存の捉え方が本当に正しいのかというスタンスの中で、改めて自分たちのやっている行動を再認識して頂きたい。どうですか。
中学校長	一番頭にあるのは、校訓の「生き抜く力」が大事。これが求める生徒の姿であると思っている。その次の段階の具体的な位置づけというところを作っていくと、結果がどうだったかということがわかりにくくなる。そのへんは一緒になって考えるべきかと思う。
教育長	具体性に関わるところはもう少しみんなで議論していくことをこれから進めて行くべきと思う。
町長	校長先生で具体的に今の話の人間像としてなにか具体的な別のわかりやすい言葉があるか。
中学校長	中学3年生なので、自分が思っている夢に向かっての進路実現、そのためには学力もつけていかないといけないし先々自分がどうなりたいかというような自分自身を振り返る力を付けていかないといけないので自分の思う進路実現に向かって行ける、最後までがんばれる子。 それを到達するために保育園から小学校から中学校からどういうものを身につけていけばいいかという道筋を誰もが共有したりすると、職員も仕事に対する励みができる。
教育委員	異年齢集団の中でそれぞれが高まっていくということもある。学級の中で楽しく学べる雰囲気ってなんだろうかと思う。一番根本的なところから学力はつくと思う、能力を持っていながらそれを伸ばしきれないところがあるのでは。根本的なところでいかに個をみてもらうのか、この子をどうしてやるのかと

町長

いう原点に帰ってもらっている先生も多いががそうでない先生もおられるかもしれない。そういう中でいろいろ問題が起きて、毎日が過ぎて、付く力も付かない、ということもあるかもしれない。

それが現実だと思う。学力がつくとはどういう状態だと思うか。その学科が楽しいとか、嬉しいと思うとか、そういう環境をたくさんつくるのが最終的に学力が伸びるというイメージで思っている。そのためには学校現場だけでは難しい部分もある。学科によってスタートがわからなければずっと尾を引いてしまう学科がある。フォロー体制が学校現場では難しいと思うので、フォロー体制が他の場でもできることが必要なら公営塾とか土日でも何かフォローができるのであれば全体が違ってくるかもしれない。それを誰かがするのか、家で親がするのかの違いはあると思うがどうか。その辺が学力アップにつながる余地があるなら一緒に考えて頂きたい。元々は誰もが能力がると思っている。何かの関係で引っかかってみたりすることは誰にでもある、生活環境のレベルもあったりするだろうし。

教育委員

何がネックになっているか早く見つけると効果があるかもしれない。

教育委員

その子を実態をしっかりと見極めることからでないスタートできないと思う。

教育長

担任一人での学習が限界に来ているのは明らかで、同じことを同じ様に教えてわかっていた時代と、子ども達が多様になっていてそれをどういうふうにするか工夫がいる。その時間の中でやるべきことと、放課後や空き時間でもっと別の町も協力しながらやること土曜日や日曜日もそういったものをすれば、もっと補完できるのではないかといったことも議論されてきていなかったことだと思う。そこの教員としてのやり辛さはたくさんあったし、高学年になれば教科担任制というのが小学校でも考えなければいけない時代になってきている。小学校と中学校の教員がどうやって学級を持って教科を持っていくのか、小学校だけでは教科担任はできないので、そこも含めて多様な子どもたちの学力をどう支えていくのか議論していかななくてはいけない。

教育委員

学力向上ということで、現状をみると、山間地の町村と都市部の町村と何が違うかということ民間の私塾が無い、学習塾の絶対数が無い中で、全国に勝負を打って出ようとするならよほど正念を据えた教育をやっていないといけない。学習塾が無いなら無いなりに、無くても有るところと勝負ができる学力を養う、30分放課後時間があるから先生がサービスで授業にというレベルではないと思う。基礎的な学力の差というのは。そこも検討していく必要がある。

町長

やはり塾は力的に大きいか。

教育委員	小学校1、2年が、夜9時になって帰ってくるというのは我々にはなじまないが、それが現実。
教育委員	基本は学校の学習の受け方をきちんとして、きちんと考えることが大切。
教育長	働き方改革が大きな命題となっていて、来年から月45時間の時間外になる。これをどうやってやっていくかについては国の方針も変わって、部活動をどう考えるかという議論もあるが、問題はいつどこで教員が教材研究するのか、授業力を高めていくか、ということが後回しになって部活が優先という教員も多くあるし、そこをもう一回考え直して行って、授業勝負、あとは頼む、というような関係づくりをしていかないと45時間なんて無理。
町長	1週間で10時間しかできないわけだから部活ですぐに飛んでしまう。
教育委員	学校にくるのは集団という意義が大きい。集団で活動したり、学び合ったり、教え合ったり。そこがどのように循環しているのかと思うことも多い。子ども達を見ていると、自分の考えを持って、自分の言葉で語れない子がいかに多いかを感じる。
教育長	集団が集団として機能しないのは、今回の基本方針の中に自尊感情という言葉が入るが、自分が人と比べてだめという子ども達がすごく多い中で、褒められるとか認められるというシャワーがすごく必要だと思う。同級生の中では、なかなか人から褒められるというシャワーが今の集団の中では全く機能していないのではないか。そこに地域の人や大人やいろんな人が、子どもたちにとって大事なんだよというシャワーを浴びせていくっていうことの中で、子ども達同士の中でもお互い認められる関係性ができていくのではないか。そこに自尊感情をどうやって育てて行って、集団の中に居ていいんだよというふうになるのか、そこを取り組んでいかななくてはと思う。
教育長	町長から、本物を見せるとか木育とかあったがいかがか。
中学校長	中学校は毎年行っているが、民話芸術座に来て頂いている。
小学校長	9月6日に車椅子に乗っているシンガーソングライターに来てもらいコンサートをしてもらう。人権教育に関連して10月25日に車椅子バスケットのチームに来ていただいて子ども達と交流して頂く。
町長	木育はどうか。
小学校長	全学年でプログラムを作っているところ。5年生の宿泊学習を町内で林業アカデミーの方と共同でプログラムをこれから作っていくところ。6年生はキャリア教育と絡めて自分の生き方を語っていただいて6年生の子ども達にも自分の将来を考えてもらうようなプログラムを考えている。

中学校長	中学校は今有る行事と絡めながら出来ればと思っている。
教育長	職場体験に林業と関わるものがあるか。
中学校長	職場体験は、生徒数が減少しているので、林業は入っていない。
教育長	企業から手が挙がらないのか。
中学校長	こちらからお願いする中に入っていなかった。
教育委員	前は林業をしておられる方に来ていただいて、中学2年生に、キャリア教育のような形で話を聞くことがあった。
小学校長	小学校ではボランティアさんを通じて、野菜作りや稲作で関わっている。
町長	今までの話で意見をお願いしたい。
副町長	今日言われたことは、本当に一つ一つ大切なことだと思う。中学校3年生の最後では、日南町で生まれて育って学んでよかったということを感じてほしいし、出来れば日南町で働きたいという子どもに育ててほしい。教員は子どもに夢と希望を与える仕事なので、是非日南町で仕事をしてよかった、出られたときにはまた帰って来たいと思ってほしい。学校は学校で思い通りの指導をしてほしい。
総務課長	行政の方も子ども達の教育に関わりたいと思っている。ただ、マッチングがこれまで出来ていなかった、できにくい何かがあったが、今回農林課が壁を超えてやってくれた。企画課もUターン支援やふるさと教育の視点でいろいろな勉強してもらいたいという思いを持っている。行政の中で連携してやっていけばもっといいものができる実感したのでよろしくをお願いしたい。
教育長	委員から、これだけはというようなことがあればお願いしたい。
教育委員	結婚対策事業は教育委員会で受け持っているが、将来にわたって人口動態をみたときに日南町で一番大きな問題である。それを打開するための事業が結婚対策事業であるということを考えたときに、教育委員会では荷が重過ぎる。全庁一丸となって対策課を組むぐらいの勢いでやっていかないといけない事業だと思っているが見解は。
町長	課を作ればいいとは思わない。結婚対策は教育課もそうだが企画課もやっていて、内容的には全庁だろうと思っている。去年が1年目、今年が2年目なので様子を見るというか、やってもらっているので、結果はまだ出ていないということだが、すぐすぐということにないかないので。教育課だからいけないということではないと思っている。

教育委員	対策については、ばらばらするより一本化した方がよい。
町長	意見として賜る。
教育長	総合教育会議は、今年度も2回の開催でよいか。
町長	2回でよいが必要があれば臨時に開いてもよい。
教育委員	5年計画の期限が来るので、かかりかけないといけない。
副町長	大綱と基本計画を一本化しているので、その摺り合わせは次回までに必要。
教育長	大綱と基本計画をどう摺り合わせるか議論していく。予算に反映させるということで秋を2回目ということはこの会がもたれているので、状況をみながら設定する。
	以上で令和元年度第1回総合教育会議を閉じます。

会議の経過を記載し、相違ないことを証するためにここに署名する。

日南町教育委員会教育委員